

台湾・基隆市とのつながり 八代港 基隆港 友好交流確認書調印式



▲中村市長と台湾港務株式会社基隆港務支社の蔡丁義総経理（代表取締役）による調印

8月10日、台湾の基隆市で「八代港基隆港友好交流確認書」の調印式が行われ、八代市からは中村市長をはじめ関係者など30人が出席しました。

これは、台湾との経済交流や良好な関係を構築することで、両港の発展を目的としています。今後、クルーズ客船のみならず、コンテナ貨物などの航路就航などを始め、さまざまな分野での交流が行われることが期待されます。

この友好港提携を皮切りに、両港の相互交流をさらに深めていくとともに、両市の間でも、経済、文化、スポーツなどの交流も進め、繋がりを強めていくことを目指します。

八代市消防団女性消防隊 初優勝 熊本県女性消防操法大会



▲標的に向け放水をする八代市消防団女性消防隊

8月23日、「第4回熊本県女性消防操法大会」が球磨川河川緑地で行われ、県内の女性消防団12団体が出場し、全国大会の切符をかけて熱戦を繰り広げました。

開会式では、八代市消防団女性消防隊の野田貴美子隊員が「郷土の代表としての誇りを胸に大会に挑みます」と力強い宣誓をしました。

同大会の競技は「軽可搬ポンプ操法」で、ポンプからホースをつないで延ばし、放水により標的の火点2つを倒します。正確な動きや規律性、タイムなどが採点のポイントで、確実な操作で放水が決まると会場からは拍手が沸き起こりました。

採点の結果、八代市消防団女性消防隊が見事初優勝を飾りました。

しめやかな踊り 第30回ふるさと祭り 植柳盆踊り



▲後ろに反り返る独特の振り

昨年3月に国選無形民俗文化財に選択された「植柳盆踊り」が8月14日、植柳小学校グラウンドで開かれ、地元住民など約1000人が集まりました。

同盆踊りは江戸時代から約400年間続くとされ、「口説き手」と呼ばれる歌い手の「ちよいちよ」「ヨイヤサー」の囃子の声に合わせて、体の前で手を交差させて仰向けに反り返る柔らかな動きが特徴です。

白装束に黒頭巾姿の植柳盆踊り保存会のメンバー23人と地区ごとに集まった住民約300人が輪になって踊りを披露しました。

歌に合わせて両手をかざし、ゆっくりとした振付は、暗闇でうごめく「亡者」を連想させ、先祖供養の盆踊り特有のしめやかな雰囲気醸し出していました。

木の温かみに癒やされる窓口 市役所本庁 証明書交付総合窓口開設式



▲お披露目されたカウンター

本市では、ワンストップで行政サービスを提供する窓口を目指して、市民課窓口にて証明書交付の総合窓口を設置。8月3日にスタートしました。これにより、所得証明書や資産証明書などの証明書の交付手続きも市民課窓口で取り扱えるようになりました。

カウンターは、地元の秀岳館高校と八代工業高校が製作し、機能的で迅速な対応ができるハイカウンターと車椅子などに対応した低床カウンターが設置されました。また、フロアマネージャーが配置され、窓口まで誘導します。

8月3日の開設式では、市産材を活用した木の温かみのあるカウンターが、お披露目された後、中村市長から両校に感謝状が贈られました。

100歳 おめでとうございます



高山 チキさん
(千丁町)

大正4年9月12日生



川崎 チサエさん
(千丁町)

大正4年9月11日生

現在、施設で暮らすチキさんは、太田郷で生まれ育ちました。結婚を機に日奈久に移り住み、5男2女の子どもを育てました。
お花や裁縫が得意で、家族の着物などを作り、喜ばれました。野菜の栽培が好きで、作った野菜で食事を楽しんでいたチキさん。長寿の秘訣は「母が強い体に産んでくれたから」。

現在、施設に暮らすチサエさんは、芦北町(旧田浦町)で5人きょうだいの長女として生まれ育ちました。結婚を機に八代に移り住み、2男3女の子どもを育てました。
お話しや旅行をよく楽しんでいたり、施設で歌や体操、おしゃべりを楽しんでいきます。長寿の秘訣は「毎日歌って体操して、楽しく、おもしろく」。

輸出で海外へ展開 フードバレーやつしろ輸出セミナー



▲アジア輸出のメリットを聞く参加者たち

9月4日、「フードバレーやつしろ輸出セミナー」が市役所千丁支所で開催され、事業者や輸出に興味がある人など約50人が参加しました。
このセミナーは、「フードバレーやつしろ基本戦略構想」の1つである「八代港からの輸出促進」を目的に行われました。物流コンサルタント会社「シマ・ロジス・テックス」の代表で、八代市海外流通アドバイザーの吉松孝一さんが「これならできる！中小企業の海外展開」と題し講演。アジア輸出のメリットや食文化・味覚・消費の傾向を自身の体験談を交えながらスクリーンを使って説明しました。吉松さんは「日本の味をベースに現地の味覚に合う味をアレンジしなければならぬ」と話しました。

山頭火になりきり俳句 おりや句会



▲選句を行う参加者たち

9月6日、日奈久の柳屋旅館でおりや句会が開催され、市内外から参加した約30人が俳句を楽しみました。
これは、9月は日奈久で山頭火実行委員会の主催で、今回で16回目です。
まず、持ち寄った俳句を紙に書き写します。次に書き写した紙を全員が読み、1人ひとりが全俳句の中から5句選句します。最後に実行委員会が選句された俳句を読み上げ披露しました。
中には、何人もの人からいくつも選ばれた人もいて、驚きの声があがりました。
最も多くの人から選ばれたのは、畑田孝子さん(美里町)の「死なば骨 九月はゆるりと 日奈久の湯」です。畑田さんは「皆さんに選んでもらえてうれしいです」と笑顔で語りました。

救急処置の貴重な体験 救急の日2015



▲はしご車搭乗体験をする小学生

9月9日の「救急の日」を前に八代消防署による「救急の日2015」が9月5日に八代ゆめタウンで行われました。
これは、救急処置の普及啓発を目的に毎年行われており、消防士が実際に着用する防火衣などの着装体験、人形を使っている胸骨圧迫やAEDによる心肺蘇生法の体験などが行われました。今回、特別ゲストとして「くまモン」も会場内に駆けつけ、救急の日をPR。買い物に来ていた家族連れなどで大いに賑わいました。
会場外で行われた、はしご車搭乗を体験した八千把小5年の和田尚子さんは、「初めて体験しました。高いところが苦手でも最初は怖かったけれど、景色がよくて気持ちよかったです。また、乗ってみたいです」と語りました。



献血功労団体に対する表彰伝達式



▲左から野田昌博運営専務、中村市長、山崎具視会長、古島龍太副会長

熊本県建設業協会八代支部青年部が、献血功労団体として日本赤十字社から表彰を受け、8月28日、市役所で中村博生市長から表彰の伝達を受けました。

これは、7月17日に大阪府で行われた「第51回献血運動推進全国大会」で、積極的な献血推進活動を行っている団体として表彰されたものです。5年以上の献血に対する功労で日本赤十字社熊本県支部長感謝状（銀杯）が贈られました。山崎具視副会長は「今後も活動を続けていきたい」と話しました。

八代廃校文化祭inたがみ



▲ご飯を手に、並べられたおかずを選ぶ参加者

8月22日と23日、第2回八代廃校文化祭が坂本町の旧田上小学校校舎で開催され、多くの来場者で賑わいました。

目玉の催しとして、「めしわんグランプリ」が初めて行われました。これは、田上で一番おいしいおかずを参加者がおわんで投票するというもの。1杯100円でご飯を購入した約120人が、5地区から出品された12品目のおかずをおいしそうに試食し、投票していました。グランプリに輝いたのは、上鶴地区のだご汁と中畑地区のシシ肉のしぐれ煮でした。

さわやかヤングステージ



▲オープニングを飾った八代高等学校・八代中学校吹奏楽部

8月22日、やつしろハーモニーホールで「17回さわやかヤングステージ」が行われ、市内の高校生や中学生、保育園児など15組約200人が楽器の演奏や伝統芸能などを披露しました。

これは、7月・8月の「社会を明るくする運動」の強調期間に、青少年の元気・勇氣・やる気を応援するために毎年開催されています。

八代高校・八代中学校吹奏楽部の演奏で幕開け。バンド演奏や合唱、書道パフォーマンスなどが披露され、会場からは大きな拍手が送られていました。

八代伝統芸能衣装方着付け講習会



▲小嶋授子さん（中央）が手本を披露

八代妙見祭の神幸行事で、祭礼衣装の着付けをボランティアで行っている衣装方の皆さんは、今年8月に「八代伝統芸能衣装方」として正式に会を発足しました。会長の小嶋授子さんを中心に代陽公民館で毎月数回昼と夜の着付け講座を開催しています。

9月8日に行われた講習会では、鉄砲や毛槍の衣装のほか、みこしの衣装である白張の着付けも行われました。参加者は、美しいひもの結び方や緩みにくいポイントなどを学びながら、真剣な表情で着付けを実践していました。

NHK-FM「吹奏楽のひびき」公開収録



▲一番左がソプラノサクソフォーンを演奏する雲井雅人さん

9月5日、厚生会館でNHK-FM（85.4MHz）の音楽番組「吹奏楽のひびき」の公開収録が行われ、市内外からの約600人が「雲井雅人サクソクス四重奏団」の演奏を楽しみました。

ソプラノ、アルト、バリトン、テナーの4種類のサクソクスで、ドボルザークの「アメリカ」などのクラシックから、「あんたがたどこさ」などのわらべ歌まで幅広い楽曲を約2時間披露しました。

収録された内容は、10月11日（日）・18日（日）の午前7時20分～8時10分に放送予定です。

とまピン隊オーディション



▲緊張した面持ちで質問に答える参加者

9月5日、松江町にあるエフエムやつしろで「第1回とまピン隊オーディション」が行われました。

審査員であるTOMATOフェスタ実行委員会メンバーなどから応募の動機や取り組みたいことなどについて質問された参加者は、緊張した面持ちで答えていました。

合格者は、ダンスレッスンなどを受けた後、とまピン隊として各地でのイベントに出向き、TOMATOフェスタのPR活動を行っていくこととなります。